

### (3) 文部科学大臣表彰若手科学者賞

#### 表彰対象

1. 若手科学者賞は、次代を担う若手研究者の自立を促し、独創性の高い科学技術の発信に貢献するため、萌芽的な研究あるいは、独創的視点に立った研究等、高い研究開発能力を示した若手研究者個人を表彰する。
2. 若手科学者賞は、以下の要件に該当する者を対象とする。  
萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者個人

- \* 1 「萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者個人」とは
  - ・ 科学技術の各分野において、新たな研究手法、独創的な視点に立った研究手法等によりその研究能力あるいは開発能力の優秀性を示す顕著な業績をあげた者
  - ・ 学会表彰等により、研究の独創性等が客観的に評価されている者
  - ・ 国際的に高い評価を得ている学会誌・雑誌等に論文が掲載され、その優秀性が客観的に評価されている者
- \* 2 「若手研究者」とは
  - ・ 受賞時（表彰年度の4月1日現在）において40歳未満の研究者  
（なお、上記年齢制限内であれば日本学術振興会特別研究員も対象になります）

#### 申請可能な系・分野

「若手科学者賞申請分野分類表」（57～58ページ）の中から選択すること。

### ○文部科学大臣表彰若手科学者賞の申請に必要な書類等

文部科学大臣表彰若手科学者賞への申請に際しては、以下の書類を所定の様式に従い作成すること。

書類は紙媒体で提出すること。なお、事務局による記載事項等の確認ののち、必要に応じて追加提出を求められることがあり得る。

#### (1) 候補調査書

様式11（46～53ページ）に従い作成すること。

項目7-3及び7-4には、査読付き論文及び登録特許・実用新案のみを記載可能とし申請中・出願中のものは記載しないこと。なお、記載したすべての論文及び特許・実用新案の写を添付すること。

（様式11：3部。両面印刷不可）

（論文、特許・実用新案の写：各2部。両面印刷可）

#### (2) 候補者調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」

様式12（54ページ）に従い作成すること。

本資料に記載した新聞記事等のうち、表彰対象の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすい新聞記事等の写（10件以内）を添付すること。

（様式12：3部。両面印刷不可）

（新聞記事等の写：各3部。両面印刷不可）

#### (3) 履歴書

様式13（55ページ）に従い作成すること。

（様式13：3部。両面印刷不可）

(4) 候補者推薦書

様式14(56ページ)に従い作成すること。

- ・本推薦書の作成については、推薦機関が責任を持つこと。
- ・本推薦書は候補者の研究能力に対する客観的評価に関わるものである。
- ・本推薦書は、候補者及び候補者の研究内容について理解し、十分把握している者(例えば候補者の所属する研究チームのリーダー及びサブリーダー、もしくは当該研究チームの一員でも可)が、それぞれの視点から記載すること。
- ・本推薦書は、3名の者からの提出を要する。従って、記載内容は記載者によって異なることを前提とする。
- ・本推薦書に記載の内容は、候補者本人を含め他者には口外しないこと。  
(様式14:3名分それぞれ正1部、副2部。両面印刷不可)

(5) 戸籍抄本(1部)

ただし、外国籍の場合は、戸籍抄本に代えて推薦締切日の2か月以内に発行された住民票を提出すること。

## ○文部科学大臣表彰若手科学者賞の申請書類提出要領

文部科学大臣表彰若手科学者賞への申請に際しては、様式に従い作成した候補調査書、候補調査書付属資料、特許・論文の写し等の各種書類は、以下の要領に従い提出すること。

なお、審査過程で必要に応じて追加提出を求めることがあり得る。

(1) 資料の順番

(A) 管理用書類(1部)

各種書類を1部ずつ①～⑥の順番に並べ、左肩クリップもしくは左肩ホチキス留めとし、1セットとすること。

- ①候補調査書(様式11)
- ②候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」(様式12)
- ③履歴書(様式13)
- ④戸籍抄本(外国籍の受賞候補者は住民票)
  - ・B5サイズの戸籍抄本(外国籍の受賞候補者は住民票)の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。
- ⑤その他資料
  - ・会社の概要を示す資料(パンフレット等)(大学等の公的機関の場合には不要)
  - ・受賞関係資料(表彰概要、表彰状の写、受賞理由及び業績内容のわかる資料)
- ⑥候補者推薦書(様式14)(3名分(正))

(B) 審査用書類(2部。ただし④は3部)

各種書類を1部ずつ①～⑥の順番に並べ、左肩クリップもしくは左肩ホチキス留めとし、1セットとすること。

- ①候補調査書(様式11)
- ②候補調査書7-4①研究論文一覧及び②特許・実用新案一覧に記載の論文及び特許・実用新案の写  
(論文、特許もしくは実用新案1件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。)
- ③候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」(様式12)
- ④「新聞等掲載状況一覧」に記載の新聞記事等の写(A4版の大きさに統一し左肩ホチキス留め)
- ⑤履歴書(様式13)
- ⑥候補者推薦書(様式14)(3名分(副))

(2) 資料の取りまとめ

- ・上記(1)により作成した資料を、1セットずつ封筒に入れること。
- ・封筒の右肩には、それぞれ内容物が分かるよう、以下を記載すること。
  - ①申請する賞と申請分野の名称
    - ・申請分野は、候補調査書7-1「業績の概要」の「申請分野」を記載する。
  - ②候補者氏名
  - ③推薦機関名
  - ④管理用資料、審査用資料の別
    - 例) 管理用資料の場合 … 「管」と記載
    - 審査用資料1セット目の場合 … 「審-1」と記載
    - 審査用資料2セット目の場合 … 「審-2」と記載
- ・資料1セットが、封筒1枚にまとめられない場合には分けて入れること。  
その際には、その旨が分かるよう封筒右肩に記載すること。
  - 例) 審査用資料が封筒1枚にまとめられず、封筒2枚に分かれる場合。

若手科学者賞	〇〇分野
候補者氏名	〇〇〇〇
推薦機関名	△△△△
「審-1」	1/2

(3) その他

- ・候補調査書及び候補調査書付属資料に含まれる個人情報については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき管理し、本表彰審査のために利用します。
- ・受賞者の氏名・年齢、所属・役職、業績名、業績概要、推薦機関名等は公表されますので予め承知願います。

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請書類には記載しないこと。

- ・本調査書について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。
- ・本調査書は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、7枚以内にまとめること。（両面印刷不可）

様式 1 1

## 若手科学者賞 候補調査書（機関・個人）

- ・表題は、機関推薦か個人推薦かを記載する。

### 1. 業績名

--

- ・業績名は、候補案件とする研究テーマの内容を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・業績名の語尾は、「研究」とすること。
- ・業績名は語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、原則として業績名には商標、商品名、会社名及び句読点等（（ ） 「 」 ・、。 ）を使用しないこと。

### 2. 受賞候補者

<small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな ○○○○ （○○歳）（昭和○○年○○月○○日生） （女）
所属・役職	○○大学 ○○学部 教授 （現職のみ記載すること）
候補者の現住所	〒 — ○○県○○市○○町 1-1

- ・受賞候補者は、本件業績について、科学技術上の貢献が客観的に確認できる者であること。
  - ・氏名は、原則として戸籍と同一の文字を使用すること。必ずふりがなを付すこと。
  - ・旧姓使用の場合は、戸籍上の氏名の下に、旧氏名を（ ）書きで記載すること。
- 旧姓使用については、（ ）書きとする。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
  - ・現住所は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
  - ・独立行政法人は（独）、財団法人は（公財）又は（一財）、社団法人は（公社）又は（一社）、株式会社は（株）とし、役職は正確に記載すること。

### 3. 受賞候補者の研究経歴

年 月 日	所 属 ・ 役 職	研 究 テ ー マ
平成○○年○○月○○日	○○大学○○部○○学科卒業	○○専攻
平成○○年○○月○○日～	○○大学 ○○学部 助手	○○○の研究 ○○○の研究 (○○領域担当)
平成○○年○○月○○日～	○○大学 ○○学部 教授	△△△の研究 △△△の研究 (△△領域担当)

- ・受賞候補者の最終学歴から現在までの研究経歴について記載すること。
- ・「研究テーマ」欄について、最終学歴の行に、就学中に専攻していた分野を記載するとともに、その後に携わった研究テ

ーマをそれぞれ「所属・役職」に対応するように記載すること。

- ・候補案件とする研究テーマに下線を付すこと。

#### 4. 表彰歴

表彰年月日	表彰名称	表彰業績名	表彰主催団体名
昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名： <u>〇〇〇〇</u> )	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の開発」	(財) 〇〇協会
平成〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名： <u>〇〇〇〇</u> 、 <u>△△△△</u> 、 <u>□□□□</u> )	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の発明」	(一社) 〇〇学会

- ・候補案件とする研究テーマにおいて、受賞候補者が表彰を受けた事項を全て記載すること。
- ・表彰年月日、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、全ての受賞者氏名を記載順通りに記載すること。(本件候補者氏名に下線を付すこと)
- ・表彰歴欄に記載した全ての受賞について、表彰状の写ならびに、受賞理由および業績内容のわかる資料(表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等)の写を添付すること。(写はA4縦用紙で統一すること。両面印刷可)

#### 5. 推薦機関

機関名	
代表者氏名	
所在地等	〒 ー TEL :
推薦事務担当者 所属・氏名 連絡先	TEL : FAX : E-Mail :

#### 5. 推薦者

所属、職名	
推薦者氏名	
連絡先	〒 ー TEL : FAX : E-Mail :

- ・本項については、推薦機関ならびに、その機関内の推薦事務担当者について記載すること。
- ・推薦機関の場合は、上段の記載内容で、個人推薦の場合は、下段の記載内容で作成する。
- ・推薦機関とは、文部科学省研究振興局長から推薦依頼を受けた機関。
- ・「所在地等」欄は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・「推薦事務担当者」欄については、「6. 本件内容に関する問合せ先」に記載された者と連絡がとれない場合に、確実に連絡のとれる者を記載すること。(複数名記載可) なお、災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがある。
- ・本調査書を含む申請書類についての責任は、推薦機関及び推薦者にあるものとする。

## 6. 本件内容に関する問合せ先

所属・氏名 <small>なりがな</small>	
連絡先	TEL : E-Mail : FAX :

- ・「本件内容に関する問合せ先」欄には、候補者の業績について、文部科学省からの質問等（技術的内容を含む）に対して適切かつ確実に応答のできる者を記載すること。（ただし、候補者本人は不可。）
- ・必ず連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）
- ・個人推薦の場合は、5. の推薦者欄の内容を記載する。

7-1. 業績の概要

候補案件とする 研究テーマ (研究期間)	○○○○研究 (昭和○○年○○月～平成○○年○○月)			
申請分野	① 分野	1. 情報学 2. 環境学 3. 複合領域 4. 総合理工 5. 数物系科学 6. 化学 7. 工学 8. 総合生物 9. 生物学 10. 農学 11. 医歯薬学		
	② 分科		③ 細目	
	※別表『若手科学者賞 申請分野分類表』に従い、上記「候補案件とする研究テーマ」がどのような研究分野に属するかについて、記載すること。			
候補者氏名 (役職)	○○○○ (○○大学教授)	性別	1. 男 2. 女	
共同研究者氏名 (役職)	△△△△ (○○大学教授)、□□□□ (○○大学准教授)、 ▲▲▲▲ (○○研究所主任研究員)、◇◇◇◇ (○○研究所研究員)			
候補者の担当領域				
候補案件とする研究テーマ				
(1) 当該分野における位置付け				
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                 当該分野における本研究テーマの目的を含めて簡潔明瞭に記載。             </div>				
.				
.				
.				
(2) 具体的内容				
①本候補者の研究の内容				
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                 本候補者の研究の独創性が、明確かつ理解できるように記載。             </div>				
.				
.				
.				
②本候補者の着眼点とその論理的根拠				
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                 本研究テーマにおける具体的研究手法・手段を含めて簡潔明瞭に記載。             </div>				
.				
.				
.				
(3) 当該分野における研究のながれ				
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                 当該分野における研究動向 (方向性・手段等) について、現状ならびに問題点を中心に記載。             </div>				
.				
.				
.				
(4) 当該分野における本候補者の着眼点の優秀性				
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                 本候補者の着眼点の優秀性を、当該分野に対するインパクト等を含めて記載。             </div>				
.				
.				
.				

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・研究が継続中の場合、研究期間の終期は「～継続中」と記載すること。
- ・文章はすべて箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・受賞候補者の成果と関係のない記述はしないこと。

## 7-2. 候補案件とする研究テーマの内容

本調査書7-1(2)候補案件とする研究テーマの具体的内容(①本候補者の研究の内容、②本候補者の着眼点とその論理的根拠)、(4)当該分野における本候補者の着眼点の優秀性について、図表を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・参考図は、カラー可とする。(プリントアウトした写真を直接貼付することは不可。ただし、パソコン等から画像データを取り込み貼付することは可とするが、1枚にまとめることを考慮して最小限の大きさとする。)
- ・参考図は簡単な図とする。特許公報等の図の転用は原則不可とする。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明をすべて付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。



7-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案（5件以内）

① 論文名：「○○○○○○の研究」 ② 全執筆者氏名（候補者氏名に下線） ③ 掲載誌名・巻号・ページ・発表年月：○○学会誌 vol.○ p○～○、○年○月発表 ④ 当該論文の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、本論文・特許における全執筆者・発明者のうち当該候補者の貢献した度合いを数値化したもの。
① 論文名：「○○○○○○の研究」 ② 全執筆者氏名（候補者氏名に下線） ③ 掲載誌名・巻号・ページ・発表年月：○○学会誌 vol.○ p○～○、○年○月発表 ④ 当該論文の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、本論文・特許における全執筆者・発明者のうち当該候補者の貢献した度合いを数値化したもの。
① 論文名：「○○○○○○の研究」 ② 全執筆者氏名（候補者氏名に下線） ③ 掲載誌名・巻号・ページ・発表年月：○○学会誌 vol.○ p○～○、○年○月発表 ④ 当該論文の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、本論文・特許における全執筆者・発明者のうち当該候補者の貢献した度合いを数値化したもの。
① 登録番号・タイトル：特許第○○○○○○○号 「○○○○装置」 ② 全発明者氏名（候補者氏名に下線） ③ 出願、登録年月日：昭和○○年○○月○○日出願、昭和○○年○○月○○日登録 ④ 当該特許の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、本論文・特許における全執筆者・発明者のうち当該候補者の貢献した度合いを数値化したもの。
① 登録番号・タイトル：特許第○○○○○○○号 「○○○○装置」 ② 全発明者氏名（候補者氏名に下線） ③ 出願、登録年月日：昭和○○年○○月○○日出願、昭和○○年○○月○○日登録 ④ 当該特許の概要 ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、本論文・特許における全執筆者・発明者のうち当該候補者の貢献した度合いを数値化したもの。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・候補案件とする研究テーマに関する受賞候補者の主要な論文（査読付き論文）の論文名、全執筆者氏名、掲載誌名、巻号、ページ、発表年月（西暦）を記載するとともに、当該論文の概要について簡条書きで記載すること。
- ・候補案件とする研究テーマに関する主要な特許・実用新案（登録されている特許・実用新案のみ）の登録番号、タイトル、全発明者氏名、出願年月日、登録年月日を記載するとともに、当該特許・実用新案の概要について簡条書きで記載すること。出願中のものは記載しないこと。
- ・主要論文・特許・実用新案あわせて5件以内で記載。

#### 7-4. 候補案件とする研究テーマに関する成果

##### ①研究論文一覧

- ◎ 1. △△△△ (〇〇大学教授)、〇〇〇〇 ((株)〇〇工業〇〇部主任研究員)、□□□□ (〇〇大学教授)、「〇〇〇〇の開発とその効果について」(〇〇学会〇〇賞受賞)、〇〇学会誌 vol. 〇 p〇～〇、〇〇年〇〇月発表
- ◎ 2. □□□□ (〇〇大学教授)、〇〇〇〇 ((株)〇〇工業〇〇部主任研究員)、◇◇◇◇ (〇〇研究所研究員)、「〇〇〇〇の効果的利用について」、〇〇学会誌 vol. 〇 p〇～〇、〇〇年〇〇月〇〇日発表
- 3.
- 4.
- :
- :
- :

- ・候補案件とする研究テーマに関係する受賞候補者の推薦時点における発表済みの全ての論文（学協会等の査読付き論文）について、全執筆者氏名、論文名、掲載誌名、巻号、ページ、発表年月（西暦）を記載すること。
- ・執筆者氏名について、共著であれば、本件候補者を含む全員の役職（発表当時の役職を記載すること）・氏名を論文と同じ順番で省略せずに全て記載し、本件候補者氏名には下線を付すこと。
- ・本調査書「7-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案」に記載した論文については、本項にも記載するとともに、◎印を付すこと。
- ・本項に記載した論文に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を論文名の後にカッコ書きで記載すること。
- ・本項に記載した全ての論文の写を添付すること。（写についてはA4縦用紙で統一すること。両面印刷可。）

②特許・実用新案一覧

- ◎ 1. 特許第〇〇〇〇〇〇号「〇〇の製造方法」  
昭和〇〇年〇〇月〇〇日出願、昭和〇〇年〇〇月〇〇日登録  
全発明者氏名：△△△△（〇〇大学教授）、〇〇〇〇（(株)〇〇工業〇〇部主任研究員）
2. 特許第〇〇〇〇〇〇号「〇〇〇の成型方法」（〇〇学会〇〇賞受賞）  
平成〇〇年〇〇月〇〇日出願、平成〇〇年〇〇月〇〇日登録  
全発明者氏名：◎◎◎◎（〇〇大学教授）、△△△（(株)〇〇主任研究員）、□□□□（(株)〇〇研究員）
- 3.
- 4.
- :  
:  
:

- ・候補案件とする研究テーマに関係する受賞候補者の全ての特許・実用新案（登録されている特許・実用新案のみ）について、登録番号、タイトル、出願年月日、登録年月日、全発明者氏名を記載すること。（本件成果と直接関係のない特許・実用新案については記載しないこと。出願中のものは記載しないこと。）
- ・「全発明者氏名」欄について、共同開発の場合には、本件候補者を含む全員の役職（共同開発当時の役職）を記載すること。氏名を特許・登録公報（旧公告公報）と同じ順番で省略せずに全て記載し、本件候補者氏名には下線を付すこと。
- ・本調査書「7-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案」に記載した特許・実用新案については、本項にも記載するとともに、◎印を付すこと。
- ・本項に記載した特許・実用新案に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨をタイトルの後にかっこ書きで記載すること。
- ・本項に記載した全ての特許又は実用新案の特許・登録公報（旧公告公報）の写を添付すること。（写についてはA4縦用紙で統一すること。両面印刷可。）

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（両面印刷不可）

様式 12

若手科学者賞 候補調査書付属資料  
「新聞等掲載状況一覧」

候補者の成果を取り上げた新聞記事等一覧（全件記載のこと）

1. ○○年○○月○○日掲載、○○新聞（○面）、「○○○○の○○について」
  - ◎2. ○○年○○月○○日掲載、△△新聞（○面）、「○○○○の○○について」
  - ◎3. ○○年○○月○○日発刊、△△誌（p○～○）、「○○○○の○○について」
- :
- :

- ・受賞候補者の成果を取り上げた全ての新聞記事・雑誌等について、掲載・発刊年月日、掲載紙・雑誌名、タイトルを記載すること。
- ・本資料に記載した新聞記事のうち、受賞候補者の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすい新聞記事等の写を添付すること。但し、添付する新聞記事等は 10 件以内とする。（写とは、A4用紙に切り抜き記事を貼付し、コピーしたもの。両面印刷不可）
- ・写を添付した項目に◎を付すこと。

## 履 歴 書

氏 名 ふりがな  
〇 〇 〇 〇

生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (〇〇歳)(表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載すること。)

本籍地 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1

現住所 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1

現職 (株)〇〇工業 代表取締役社長

## (学 歴)

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業

## (職 歴)

自昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 入社

至昭和〇〇年〇〇月〇〇日

自昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 〇〇課長

至昭和〇〇年〇〇月〇〇日

自平成〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 代表取締役社長

至 現 在

## (公 職 歴)

自平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇会議 〇〇委員

至 現 在

## (民間団体歴)

自平成〇〇年〇〇月〇〇日 (公財)〇〇協会 理事

至 現 在

## (賞 罰)

表彰年月日

昭和〇〇年〇〇月〇〇日

表彰名称

〇〇賞

表彰主催団体名

(一財)〇〇協会

受賞者

本人他〇名

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料に不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件については、審査の対象から除外する。
- ・本推薦書は、候補者及び候補者の研究内容について理解し、十分把握している者（3名）がそれぞれの視点から記載すること。従って、記載内容は記載者によって異なることを前提とする。なお、本推薦書に記載の内容は、候補者本人を含め他者には口外しないこと。
- ・本推薦書は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、記載者1人につき1枚以内とし、正1部・副2部を提出すること。

様式14

若手科学者賞 候補者推薦書

平成 年 月 日

推薦者			
所属機関 役職・氏名		推薦者署名欄 (自筆にて記載)	
候補者との関係			
所在地	〒 ー		
連絡先	TEL :	FAX :	
	E-Mail :		

候補者	
所属機関 役職・氏名	
候補案件とする 研究テーマ	
共同研究の場合の共同研 究者氏名・役職	
候補案件とする研究テーマについて	
1. 当該研究テーマの概要	
2. 当該研究テーマの遂行・進捗における候補者の担当領域の内容・特筆すべき事項(貢献の具体的内容)	

## 若手科学者賞 申請分野分類表

系	分野	分科	細目名			
総合系	情報学	情報学基礎	情報学基礎理論 数理情報学 統計科学			
		計算基盤	計算機システム ソフトウェア 情報ネットワーク マルチメディア・データベース 高性能計算 情報セキュリティ			
			人間情報学	認知科学 知覚情報処理 ヒューマンインタフェース・インタラクション 知能情報学 ソフトコンピューティング 知能ロボティクス 感性情報学		
				情報学フロンティア	生命・健康・医療情報学 ウェブ情報学・サービス情報学 図書館情報学・人文社会情報学 学習支援システム エンターテインメント・ゲーム情報学	
					環境解析学	環境動態解析 放射線・化学物質影響科学 環境影響評価
						環境保全学
		環境創成学				
		複合領域	デザイン学	デザイン学		
			生活科学	家政・生活学一般 衣・住生活学 食生活学		
			科学教育・教育工学	科学教育 教育工学		
				科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	
			文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学		
			地理学	地理学		
			社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム 自然災害科学・防災学 生体医学・生体材料科学		
			人間医工学	医用システム 医療技術評価学 リハビリテーション科学・福祉工学		
	健康・スポーツ科学			身体教育学 スポーツ科学 応用健康科学		
	子ども学(子ども環境学)		子ども学(子ども環境学)			
	生体分子科学		生物分子科学 ケミカルバイオロジー			
	脳科学		基盤・社会脳科学 脳計測科学			
		ナノ・マイクロ科学	ナノ構造化学 ナノ構造物理 ナノ材料化学 ナノ材料工学 ナノバイオサイエンス ナノマイクロシステム			
	理工系	総合理工	応用物理学	応用物性 結晶工学 薄膜・表面界面物性 光工学・光子科学 プラズマエレクトロニクス 応用物理学一般		
			量子ビーム科学	量子ビーム科学		
			計算科学	計算科学		
			ナノ・マイクロ科学	ナノ構造化学 ナノ構造物理 ナノ材料化学 ナノ材料工学 ナノバイオサイエンス ナノマイクロシステム		

系	分野	分科	細目名		
理工系	数物系科学	数学	代数学 幾何学 解析学基礎 数学解析 数学基礎・応用数学		
		天文学	天文学		
		物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理 物性 I 物性 II 数理物理・物性基礎 原子・分子・量子エレクトロニクス・プラズマ 生物物理・化学物理・ソフトマターの物理		
			地球惑星科学	固体地球惑星物理学 気象・海洋物理・陸水学 超高層物理学 地質学 層位・古生物学 岩石・鉱物・鉱床学 地球宇宙化学	
		プラズマ科学	プラズマ科学		
		化学	基礎化学	物理化学 有機化学 無機化学	
			複合化学	機能物性化学 合成化学 高分子化学 分析化学 生体関連化学 グリーン・環境化学 エネルギー関連化学	
				材料化学	有機・ハイブリッド材料 高分子・繊維材料 無機工業材料 デバイス関連化学
					機械工学
			電気電子工学	電力工学・電力変換・電気機器 電子・電気材料工学 電子デバイス・電子機器 通信・ネットワーク工学 計測工学 制御・システム工学	
	工学	土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント 構造工学・地震工学・維持管理工学 地盤工学 水工学 土木計画学・交通工学 土木環境システム		
			建築学	建築構造・材料 建築環境・設備 都市計画・建築計画 建築史・意匠	
		材料工学	金属物性・材料 無機材料・物性 複合材料・表界面工学 構造・機能材料 材料加工・組織制御工学 金属・資源生産工学		
		プロセス・化学工学	化工物性・移動操作・単位操作 反応工学・プロセスシステム 触媒・資源化学プロセス 生物機能・バイオプロセス		
	総合工学	航空宇宙工学 船舶海洋工学 地球・資源システム工学 核融合学 原子力学 エネルギー学			

系	分野	分科	細目名	
生物系	総合生物	神経科学	神経生理学・神経科学一般 神経解剖学・神経病理学 神経化学・神経薬理学	
		実験動物学	実験動物学	
		腫瘍学	腫瘍生物学 腫瘍診断学 腫瘍治療学	
		ゲノム科学	ゲノム生物学 ゲノム医科学 システムゲノム科学	
		生物資源保全学	生物資源保全学	
	生物学	生物科学	分子生物学 構造生物化学 機能生物化学 生物物理学 細胞生物学 発生生物学	
		基礎生物学	植物分子・生理科学 形態・構造 動物生理・行動 遺伝・染色体動態 進化生物学 生物多様性・分類 生態・環境	
		人類学	自然人類学 応用人類学	
	農学	生産環境農学	遺伝育種科学 作物生産科学 園芸科学 動物保護科学	
		農芸化学	植物栄養学・土壌学 応用微生物学 応用生物化学 生物有機化学 食品科学	
		森林圏科学	森林科学 木質科学	
		水圏応用科学	水圏生産科学 水圏生命科学	
		社会経済農学	経営・経済農学 社会・開発農学	
		農業工学	地域環境工学・計画学 農業環境・情報工学	
		動物生命科学	動物生産科学 獣医学 統合動物科学	
		境界農学	昆虫科学 環境農学(含ランドスケープ科学) 応用分子細胞生物学	
		医歯薬学	薬学	化学系薬学 物理系薬学 生物系薬学 薬理系薬学 天然資源系薬学 創薬化学 環境・衛生系薬学 医療系薬学
			基礎医学	解剖学一般(含組織学・発生学) 生理学一般 環境生理学(含体力医学・栄養生理学) 薬理学一般 医化学一般 病態医化学 人類遺伝学 人体病理学 実験病理学 寄生虫学(含衛生動物学) 細菌学(含真菌学) ウイルス学 免疫学
	境界医学		医療社会学 応用薬理学 病態検査学 疼痛学	
	社会医学		疫学・予防医学 衛生学・公衆衛生学 病院・医療管理学 法医学	

系	分野	分科	細目名						
生物系	内科系臨床医学	内科系臨床医学	内科学一般(含心身医学) 消化器内科学 循環器内科学 呼吸器内科学 腎臓内科学 神経内科学 代謝学 内分泌学 血液内科学 膠原病・アレルギー-内科学 感染症内科学 小児科学 胎児・新生児医学 皮膚科学 精神神経科学 放射線科学						
			外科系臨床医学	外科系臨床医学	外科学一般 消化器外科学 心臓血管外科学 呼吸器外科学 脳神経外科学 整形外科学 麻酔科学 泌尿器科学 産婦人科学 耳鼻咽喉科学 眼科学 小児外科学 形成外科学 救急医学				
					歯学	歯学	形態系基礎歯科学 機能系基礎歯科学 病態科学系歯学・歯科放射線学 保存治療系歯学 補綴・理工系歯学 歯科医用工学・再生歯学 外科系歯学 矯正・小児系歯学 歯周治療系歯学 社会系歯学		
							看護学	看護学	基礎看護学 臨床看護学 生涯発達看護学 高齢看護学 地域看護学

※若手科学者賞候補調査書(様式11)中、「7-1業績の概要」の「申請分野」の欄において、候補案件とするテーマがどのような研究分野に属するかについて、上記表に従い、分野、分科、細目まで記載すること。